議会だより

しょうわ

2022.10.27
No.195

山梨県昭和町議会
https://www.town.showa.yamanashi.jp/site/gikai/

表紙写真
がんばる姿が金メダル

•表題(しょうわ)については
「西条小学校 6年1組 忠本　美優(ただもとみゅう)さん」の直筆です。

② 令和3年度決算審査
④ 9月定例会で決まったこと
⑧ 一般質問 ここが聞きたい
⑰ 追跡 あの質問はどうなった

令和3年度 決算審査

コロナ関連事業で 歳出額 100億円超！

ワクチン接種本格化や待機児童解消への取り組みを充実

※数値は端数調整しています。

9月定例会の概要と監査委員の意見

令和4年第3回定例会において、当局より令和3年度一般会計決算と国民健康保険・後期高齢者医療・介護保険・介護サービス・下水道事業・渇水対策事業の各特別会計決算の議案が提出されました。

また、代表監査委員より、7月25日から8月5日までの10日間で実施された、令和3年度歳入歳出決算審査の結果、各決算ともに適法かつ適正に処理されているとの報告がありました。

これに伴い設置された「決算審査特別委員会」において、全議員で議案の慎重審査を行い、本会議において、すべての決算議案を**全員賛成で認定**しました。

適法かつ適正に執行 財政面も健全

小林 一（こばやし はじめ）代表監査委員

町の借金（一般会計地方債残高）

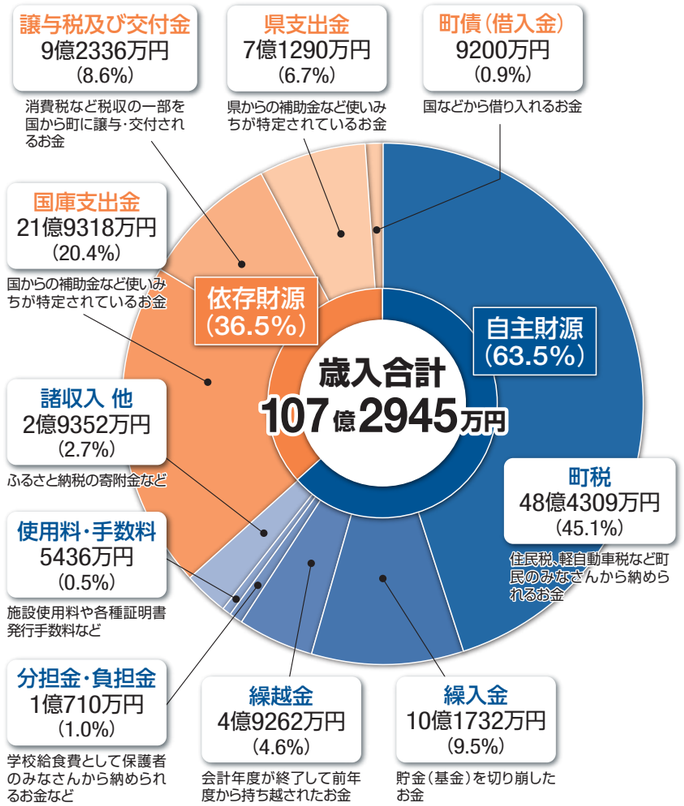
町民一人あたり	前年度比-4億1258万円
17.0万円	35億4600万円

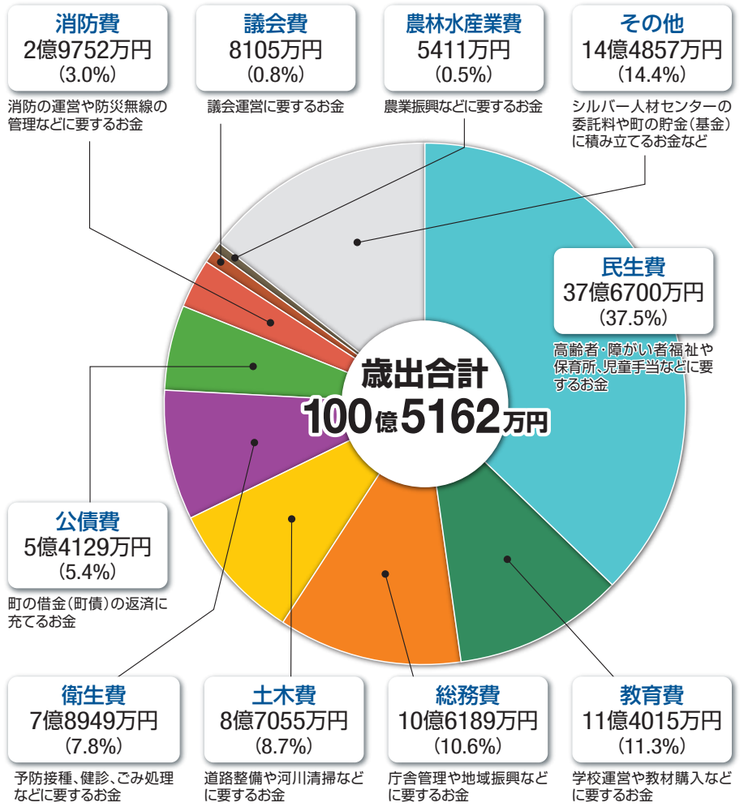
町の貯金（一般会計基金残高）

町民一人あたり	前年度比+2億5677万円
22.7万円	47億2083万円

町税の内訳

固定資産税	24億2963万円
町民税	20億7103万円
町たばこ税	2億6946万円
軽自動車税	7192万円
入湯税	105万円





令和3年度特別会計決算

※数値は端数調整してあります。

会計名	歳入総額	歳出総額
国民健康保険	17億5138万円	17億3273万円
後期高齢者医療	1億7916万円	1億7847万円
介護保険	10億8204万円	10億2792万円
介護サービス	2755万円	2714万円
下水道事業	10億5667万円	10億4336万円
渇水対策事業	307万円	276万円
合計	40億9987万円	40億1238万円

ほたるんに聞いてみよう！ ミニ

ねぇねぇほたるん
自主財源と依存財源って
どう違うの？

自主財源は町税などの町に入ってくるお金で、依存財源は、国や県などから入ってくるお金だよ。

昭和町の財政状況

項目	数値	前年度比	説明
財政力指数	1.128	-0.061ポイント	財政力の強弱を示す指標。1を下回ると交付税措置の対象となる。
経常収支比率	81.9%	-5.2ポイント	財政の弾力性を示す指標。数値が高くなると財政の自由度が低くなる。
実質公債費比率	8.9%	+0.6ポイント	公債費による財政負担の程度を示す指標。25%を超えると地方債の発行に制限がかかる。

一般会計 ～主な使いみち～

民生費
- 児童支援費：2億1931万円
- 重度心身障害者医療費：5548万円

総務費
- 総合行政情報システム借り上げ：3981万円
- 地域力活性化交付金：2944万円

教育費
- 学校給食費：2億3457万円
- 温水プール運営費：6152万円

土木費
- 道水路新設改良工事：492万円
- 橋りょう点検委託：988万円

衛生費
- 一般廃棄物収集運搬処理：8002万円
- 予防接種委託：5478万円

消防費
- 甲府地区広域行政事務組合負担金：2億7145万円
- 消防団員報酬：394万円

農林水産費
- 道水路改良工事：1234万円
- 農業振興地域農地保全助成金：395万円

公債費
- 5億4129万円

9月定例会で決まったこと

令和4年9月定例会は、9月1日から9月16日まで16日間の会期で開催しました。同意1案件、承認関係1案件、条例関係3案件、令和4年度一般会計及び特別会計補正予算関係7案件、令和3年度決算の認定関係7案件、諮問関係1案件、請願1案件、議提1案件の計22案件を審議しました。

詳細は11月末更新予定のHPの会議録をご覧ください　※石原高明議員は議長のため、採決には加わっていません。

案件名	内容	審議結果
昭和町監査委員の選任（再任）	任期満了に伴う昭和町監査委員の選任 （西条一区／小林（こばやし）　一（はじめ）氏）	同意
専決処分の承認を求める件 （令和4年度昭和町一般会計補正予算）	住民税非課税世帯等に対する子育て世帯等臨時特別支援事業給付金、及び山梨県生活困窮世帯緊急生活支援金の支給に伴う歳入歳出の増額補正	承認
昭和町職員の育児休業等に関する条例中改正の件	人事院規則の改正による、国家公務員への措置に準じて、育児休業・介護休暇等の取得要件の緩和等を進めることに伴う条例改正	可決
昭和町議会議員及び昭和町長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例中改正の件	公職選挙法施行令の一部改正により、一部経費に係る限度額の引き上げを行うことに伴う条例改正	可決
昭和町重度心身障害者医療費助成金の支給に関する条例及び昭和町ひとり親家庭医療費助成金の支給に関する条例中改正の件	昭和町子育て医療助成金事業の助成対象児童の年齢が、令和4年10月1日から満15歳から満18歳までに変更することに伴い、助成対象年齢を満18歳に変更するための条例改正	可決
令和3年度昭和町一般会計及び特別会計歳入歳出決算の認定を求める件（7案件）	令和3年度の一般会計、国民健康保険、後期高齢者医療、介護保険、介護サービス、下水道事業、及び渇水対策事業特別会計歳入歳出決算の認定	認定
令和4年度昭和町一般会計及び特別会計補正予算（7案件）	令和4年度の一般会計、国民健康保険、後期高齢者医療、介護保険、介護サービス、下水道事業、及び渇水対策事業特別会計補正予算	可決
人権擁護委員候補者の推薦（再任）	任期満了に伴う人権擁護委員候補者の推薦 （押越区／海野（うみの）　武仁（たけひと）氏）	適任
加配定数を維持した上での小学校35人学級の実施、中学校での35人学級の早期実施、教職員定数改善、及び義務教育費国庫負担制度拡充を図るための請願及び意見書	加配定数を維持しつつ、教職員を増員しての小中学校35人学級の実施、教職員定数改善、及び義務教育費国庫負担制度の拡充を求める請願及び意見書	採択・可決

ほたるんに聞いてみよう!

ねぇねぇほたるん、今回の議会だよりでは「決算」についてたくさん書かれているけど、決算の審査ってそんなに大事なの?

決算の審査っていうのは昨年度にどれくらいお金が入ってきて、それをどんなことに使ったのかを詳しく確認することなんだよ。監査委員や議員が町の担当者から説明を聞いて、このお金の使い方は正しかったのか、もう少し上手に使えたんじゃないかとかを厳しい目で判断・指摘するんだ。この決算の審査をしっかりすることで、昨年度のお金の使い方を改めて振り返ることができるし、来年度以降の事業でお金を効率的に使うことにつながるんだよ。

9月定例会委員会質疑

質問は要約されています

議会だよりではスペースの都合上、審議した議案や質問・答弁の内容を要約して載せています。会議の内容は、会議録に詳細に記録されており、ご覧になりたい方は議会事務局までお問い合わせください。

決算審査特別委員会

外装クラック調査とは

河住委員　町営常永団地の外装クラック調査とはどのようなものか。

都市整備課長　町営常永団地A棟の壁のひび割れから茶色の水が垂れた跡があり、調査したものだが、調査の結果、ひび割れは鉄筋までは進行していなかった。

しかし、壁に多数のひび割れがあるため、来年度、町営住宅の長寿命化計画更新と併せて修繕方法を検討する。

町営常永団地のひび割れ

中央市への負担金は

堀委員　上水道の使用料データ負担金を甲府市と甲斐市に支払っているが、中央市への支払いは。

下水道課長　使用料データ負担金は下水道使用料を賦課するために、水道管理者からのデータ提供に係る負担金である。昭和町は上水道を所有しておらず、ほとんどの下水道供用開始区域は甲府市の上水道で一部の地域で甲斐市の上水道を使用しているが、中央市の上水道を使用している区域はない。

穂のかの利用率は

河住委員　障がい者相談支援センター穂のかの昭和町民の利用率は妥当か。

また、今後利用率をどうやって上げていくのか。

福祉介護課長　穂のかは中央市と共同で設置をしているが、中央市は合併前は田富・玉穂・豊富の3町村だったことから、人口の構成比率から見て妥当だと思う。

しかし、昭和町に住む障害者手帳保持者が増加しているので、利用率向上のためにも、今後も広報等でPRしていく。

不公平感の声は

堀委員　父子世帯食事サービスについて、母子世帯からは不公平を感じるという声はないのか。

子育て支援課長　今のところそのような声は聞いていない。

今後、名称やサービス内容について、検討していきたい。

委託料が高額な理由は

海野委員　昭和町の教育費に占める児童1人あたりの費用は年間約10万円であるが、甲府市への児童委託料は約16万円である。その理由は。

学校教育課長　甲府市の担当によると、市内の小学校数は25校あり、昭和町の約8倍である。古い校舎が多く修繕費がかかることや、温暖化対策として教室にエアコンを設置したことなどがあり、これらの費用を児童数で割っているため委託料が高くなっているとの回答であった。

計画的な予算執行を

長田委員　交通安全対策費の不用額が40万円程あるが、これだけあれば白線設置工事が約1㎞できる。交通安全対策のためにも執行すべきだったと思うがどうか。

企画財政課長　指摘のとおり白線設置工事に十分使える額である。毎年計画的に年度内に予算が執行できるよう建設課と企画財政課で協議をしているが、今後はより計画的に執行していく。

途中で消えている白線

（委員：対象委員会所属議員　議員：傍聴議員）

水源対策特別委員会

補償井戸の買取価格は

長田委員　甲府市から灌漑用補償井戸などの譲渡を受ける覚書を締結したとのことだが、買い取り価格は坪単価でいくらか。

　また不要となった井戸はどうするのか。

環境経済課長　ポンプなど関係施設の減価償却も含め計算しているため、坪単価では示せないが、総額で約1400万円を予定している。

　また、昨年行った水田への水の供給調査の結果、不要と判断した井戸は5箇所あり、全て甲府市に所有権がある。これらの井戸は令和6年までに甲府市で撤去工事を行う。

産業厚生常任委員会

生分解性マルチの助成は

金丸委員　野菜等を育てる際、個人・農家問わず利用されるマルチだが、従来のポリマルチと違い、土壌中の微生物に分解され、廃プラ処理が不要な生分解性マルチに対して助成金を出してはどうか。

環境経済課長　農業に対する補助事業の要望について農業研究会で伺ったところ、同様の要望が出された。

　生分解性マルチを含め、農業研究会で検討を行っていきたい。

畑で使用されるマルチ（ポリエチレンフィルム）

小児の接種状況は

河田委員　小児の新型コロナワクチンの接種状況はどうか。

いきいき健康課長　小児（5歳～11歳）のワクチン接種は令和4年3月から順次進めており、一人が3週間の間隔をあけて2回接種を行っている。

　8月末時点では168人の対象者に対して、430人が2回接種済みで、平均接種率は25・6%となっている。全国の平均接種率は平均19・8%、県内平均は20・6%であり、本町の方が若干高い状況にある。

なぜ補正での対応なのか

小林議員　河西区のリサイクルステーション整備の工事請負費440万円は当初予算では計上できなかったのか。

環境経済課長　区から要望されたのが8月であったため、補正予算での対応となった。また、このリサイクルステーションは諏訪神社の横にあり、公園が隣接することから、子どもが砂利とガラスを間違えてけがをする可能性もあるため、早急な対応が必要と判断した。

リサイクルステーション

マイナカードの普及率は

河田委員　本町のマイナンバーカードの普及率はどうなっているか。

　また、各区へ出向き取得促進をしているが状況は。

町民窓口課長　本町でのマイナンバーカードの普及率は7月末時点で42・9%である。

　区への出張申請については、これまで6地区が終わり、19名の方に申請をしていただいた。今後は残り6地区の公会堂に出向き、取得の促進をしていく。

（委員：対象委員会所属議員　議員：傍聴議員）

地方分権対策特別委員会

返礼品からの除外とは

河住委員　本町のふるさと納税返礼品ランキングで上位を占めているシャインマスカットなどについて、返礼品で使えなくなるとのことだが詳しく説明を。

総務課長　シャインマスカットなどは昭和町の地場産品ではないが、県全体で使える共通返礼品だった。しかし、令和4年度からは共通返礼品から外され、本町の返礼品とすることができなくなってしまった。

　これに対して県全体に関係するものや新規開発品は共通返礼品にできるよう県に要望した。

総務教育常任委員会

ペーパーレスへの転換は

海野議員　本町では議会はタブレット端末を導入しペーパーレス化を行っているが、当局は紙の資料を使っている。事務の合理化や脱炭素社会のためにもペーパーレス化に早く対応すべきと考えるがどうか。

総務課長　職員間ではデスクネッツのインフォメーションや回覧板などの機能を使い、紙を減らす取り組みをしている。

タブレット端末

　また、タブレット端末については現在導入は予定していないが、今後の課題として考えていきたい。

公式LINE開設を

石原（政）議員　町民から町の公式LINEアカウントを開設してほしいという要望があるが計画は。

企画財政課長　無料通信アプリLINEの公式アカウントを活用した町民向けの情報発信を検討している。現在、費用を精査しているが、12月議会に補正予算を計上したい。

民間プールでの授業は

樋口委員　今年度、押原小学校では、民間のプールを使用して授業を行っているが、状況と課題は。

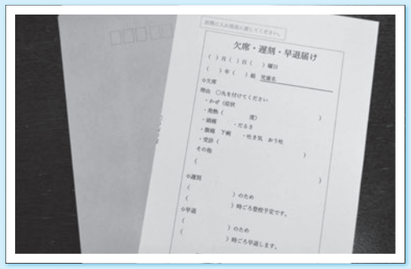
教育長　屋内プールのため、天候に左右されず、全ての授業が計画通りに実施できた。低学年の児童が使用する際、プールの深さが心配されたが、底上げ器具を使用することで問題はなかった。現在、課題をまとめているが、円滑に実施でき良好であった。

欠席届等のデジタル化を

石原（政）議員　現在、町内の小学校での欠席等は、届出用紙を使用し、登校班の班長が学校に提出している。

　9月から中学校ではGoogleフォームによる届け出を導入している。保護者の利便性、児童の負担軽減などの面からも、同様のシステムを導入してはどうか。

学校教育係長　中学生の保護者が学校に送った届出の履歴を確認したところ、早朝に送信されたケースが多く、中には夜のケースもあった。導入から日が浅いため、デジタル化のメリット、デメリットの検証はできていないが、働き方改革や教育的効果を総合的に判断し、各小学校の方針を尊重しながら導入の検討をしていきたい。



小学校で使う届出用紙

（委員：対象委員会所属議員　議員：傍聴議員）

施策を問う ＼ここが聞きたい／

※質問・答弁はスペースの都合上、要約されています。

一般質問の内容は議会事務局及び11月末更新のHP会議録からも閲覧できます ▶▶▶

Q ふるさと納税の寄附額を増やすための政策は？

A 返礼品の拡充を図り、全国に広くPRしていく

石原　政信（いしはら　まさのぶ）議員

石原

ふるさと納税は自治体の魅力を全国にＰＲできる一方、自治体間で寄附者の争奪戦が激しさを増しており、競争に負けない制度活用が課題といえる。令和元年度から令和３年度までの寄附額の実績、寄附金の使いみち、および寄附額を増やすための政策について聞きたい。

町長

令和元年度から3年度までの寄附額の実績は、返礼品の増加により、令和元年度に72万5千円だった寄附額は、令和2年度には2896万5千円、令和3年度には1億8432万3千円と大きく伸びた。

また寄附の使い道については、寄附される方の意志が反映しやすいように、項目の新設や名称の変更を重ね、一昨年からは「町制施行50周年に関連する事業」を、また昨年は町内事業者支援として実施した「事業継続応援金」「3活プレミアム付き商品券事業」の財源として活用するため「新型コロナウイルス感染症の影響を受けている町内事業者を支援する事業」を新設し、その事業を実施するにあたり全国各地から多くの寄附をいただいた。

今年度からはさらに使い道を分かりやすくするため、「子育て支援・教育環境の充実に関連する事業」、「誰もが安心して、健康に生活できるまちづくりに関連する事業」、このほか「地域経済の活性化に関連する事業」や特に指定がない方のために「町長にお任せ」、これまでの「50周年関連」と「新型コロナの影響を受けている事業者支援」など6つの使い道を設けて募集を行っている。

寄附額を増やすための推進策については、本町の魅力をＰＲし、賛同してもらえる事業を増やしながら、返礼品数の拡充に努め、掲載するポータルサイトを増やしていく。

さらに今年度は全国販売される雑誌への広告掲載なども行い、本町の魅力ある返礼品を全国にＰＲし、ふるさと納税事業を推進していく。

再質問

町民が町外に寄附を行い、税額控除で減収となった金額はどれぐらいか。

総務課長

令和3年中に町民が他市町村に寄附した実績に基づく町民税の控除は約6300万円で、これは令和4年度の本町の税収減となる。

Q 町内の防犯対策、交通安全対策は？

A 公共施設以外への防犯カメラ設置などを検討していく

海野　豊（うみの　ゆたか）議員

海野

町長は施策の４つの柱の一つに「安全安心なまちづくり」を掲げているが、本町の犯罪発生率と交通事故発生率は高い。令和３年の町内の犯罪件数と交通事故件数、及びそれぞれの対策の支出額と今後の取り組みを聞きたい。

町長

近年、犯罪件数及び交通事故発生件数は減少しているが、依然、高い状況である。町内の公共施設、学校、児童館、公園等には防犯カメラを設置しているが、公共施設以外への防犯カメラの設置については課題を整理し、関係機関との協議を行い検討を進める。また自転車ツーロックの推奨等、他の自治体の先進事例等を研究し、新たな防犯対策を講じていきたいと考える。

交通事故発生率は、令和3年では県内で2番目に高い状況である。交通事故を起こした方の半数以上は町外の方だが、引き続き対策が必要だと考える。今後の取り組みとしては、要望がある信号機や横断歩道の設置、また路面標示や停止線等交通規制標示に関しては、引き続き南甲府警察署など関係機関に働きかけをしていく。

また、道路管理者として、町が対処するカーブミラーの設置、道路外側線の引き直し等は各区と学校からの要望等をお聴きする中で早急に対処する。

学校周辺の消えた路面標示

企画財政課長

町内の令和3年中の犯罪発生件数は164件。交通事故件数は118件。本町の場合8割以上が窃盗犯で、その約半数が自転車等の窃盗が占めており、そのほかに万引き、車上狙い等がある。対策費用等について、令和3年度支出額は防犯対策では、ＬＥＤ防犯灯320万円や防犯カメラの借上げ63万円が主なもの。令和4年度には、常永ゆめ広場にも防犯カメラ2台を42万円の費用で更新した。交通安全対策費では、1632万円を支出した。

Q 交差点付近の渋滞緩和対策は？

A 検証を行い、渋滞解消策に取り組む

海野

昭和通りとアルプス通りを結ぶ町道30号線が全面開通し、便利になった反面、通勤や帰宅時間帯の交通量が増え、昭和通りとの交差点付近の交通渋滞は酷くなった。この状況に町はどう対応していくのか。

町長

町道30号線と県道昭和通り交差点を起点とする交通渋滞が、朝夕の通勤時間帯に顕著にみられる。交通渋滞の解消に向け、まずは交通量調査を実施し状況を把握して、交差点改良や信号機制御の変更なども含めた様々な方法を関係機関と連携しながら、交通渋滞の解消を目指すように努める。

Q 昭和町と農協との直売所建設に関する協定内容の実施状況は？

A 町内の出荷者はわずかではあるが増えている

河住（かわすみ） 保茂（やすしげ） 議員

河住

本町と中巨摩東部農業協同組合との農産物等の直売所建設に関する協定には、「連携協力事項」や「直売所建設の目的」「町の農業振興の目指す姿」「直売所運営協議会の設置」などが記載されている。

これらの事項の実施状況について聞きたい。

町長

本町の農業形態は兼業農家が大部分を占めており、農業従事者の高齢化や後継者不足が進んでいる。

また農振農用地の除外により住宅建設を行う開発が増えている。

このような状況の中、町では農業委員会が毎年行っている農地パトロールの結果に基づき、農地所有者の利用の意向を調査し、農地の貸し借り等のあっせんにもつなげ、不耕作地の解消と増加の抑制に努めている。

農協においては平成31年に中巨摩東部農協から山梨みらい農協へと組織体制の変更等があった。

「いーなとうぶ昭和」には中央市に配置された営農指導員が中央市と昭和町を併せて担当することとなっているため、今後は県の普及センターにも協力を求め、営農指導にあたってもらうことも考えているとのことである。

また連携事業に関しては、商工会や一坪農園の利用者との連携の実現に向けても努力していきたい。

直売所運営協議会は、新型コロナウイルス感染症の影響で、ここ3年ほど開催されていないが、少し落ち着いた状況にあった6月にはイベントを「いーなとうぶ昭和」で開催したほか、果実・野菜それぞれの部会でも講習会を実施したとのことである。

「いーなとうぶ昭和」に併設されている施設では、肥料等の購入者に対してのアドバイスなども行い交流の場となっているほか、町内からの出荷者もわずかではあるが増加しており、収穫の喜びを販売という形でも感じることができているのではないかと思う。

今後も申し合わせ事項の農業振興の目指す姿の実現に向けて、引き続き「いーなとうぶ昭和」と連携・協力していく。

再質問

「いーなとうぶ昭和」への出荷者の出荷手数料は一律15％ということだが、収入の少ない人だけでも少し免除する方向で考えてはどうか。

環境経済課長

手数料については町が文書で既に農協に依頼したが、みらい農協管内の直売所はすべて一律の手数料で設定してあり、昭和町だけ変更するのは難しいとの回答だった。町としては何かできることがないか検討していきたい。

いーなとうぶ昭和

Q 本気のまちおこしを！

A 町の魅力と成果を最大限生かしながら、さらに活力あるまちづくりに努める

堀（ほり） 門太（もんた） 議員

堀

本町が「豊かな町」と呼ばれる一因として、2つの工業団地と2つの大型ショッピングセンターを持つことが挙げられるが、この度、南アルプス市に大型商業施設が誘致されるとの報道があった。

これにより人の流れが大きく変わってしまうことも考えられることから、確固たる地場産業が必要だと思うが、町長の考えを聞きたい。

町長

地場産業を育てて町おこしにつなげてはどうかということだと思うが、地場産業を作り上げることは一朝一夕でできることではない。

しかしながら本町には二つの工業団地があり、いずれもフル稼働している。

また町内の大型商業施設には、町外からも多くの買い物客が集まり、地域の核となって、周辺地域や沿道にも小売店や飲食店が多数出店されるなど、相乗効果ともいえる発展を見せており、本町の大きな魅力であるといえる。

先人の皆様方のご努力により、優良企業の誘致に成功し、また土地区画整理事業等により住環境の整備や商業施設の誘致を進めてきた成果として、定住人口や交流人口の増加につながり、町民の皆様から住みやすいまちとして高い評価をいただいている。

こうした本町の魅力と成果を最大限活かしつつ、商工会と連携し、これまでと同様にふるさと納税事業における返礼品の開発への支援に加え、新たな取組に対しても支援・協力を行うなど、町の魅力発信とにぎわいと活力あるまちづくりに努めていく。

堀

この不安定な時代、工業団地やショッピングセンターが未来永劫に渡って本町に存在する保証はない。

考えたくはないが良くないことも想定して対応していく必要がある。誘致に成功したのだから、その恩恵を受けている今のうちに、本町の地場産業を育てる必要がある。

農業でも、加工業でも、観光業でも、何でも良いので、本町といえばコレだという物を造らないと、50年、100年先の昭和町民が苦しむことになりかねない。

種を撒かないことには芽は出ない、何も始まらない。「町おこし委員会」を立ち上げて本気で取り組んで欲しい。

Q プラスチック製品の再資源化に向けた分別収集の強化を！

A プラスチックの削減に向け、紙ストロー購入費助成制度を実施する

河田　あけみ 議員

河田

令和4年4月から施行された「プラスチック資源循環促進法」の市町村の分別収集・再商品化について、現段階では努力義務となっているが、将来的には再資源化を目的としたプラスチック製品の分別収集も視野に入れるべきと考えるが町長の見解は。

町長

今般のプラスチック資源循環促進法の施行により、町にはこれまでの分別収集に加え、玩具等包装容器以外のプラスチック製品全般についても分別収集の努力義務が生じることになるが、事業者の取り組みにより製品化や流通する段階でのプラスチック使用量の削減にも期待するところだ。町としてはまず手始めに、プラスチックの削減を目的として、紙ストローを導入した事業者への購入費助成制度を創設し、広報、周知の準備を進めている。

今後、法に基づく仕組みづくりに向け検証を行い、プラスチック製品の分別収集についても準備が整った段階で実施していく。

再質問

紙ストローへの助成制度は今年度中に施行になるのか、対象者は町内全般の事業者になるのか。

環境経済課長

早ければ9月中、遅くとも10月中には周知を開始する。町内で商売を行っている事業者どなたでも申請できる。

Q 「プラスチックごみゼロ宣言」で意識高揚を！

A 宣言の発出に向けて調査、研究を行っていく

河田

プラスチックごみによる海洋汚染問題は喫緊の課題だ。行政と住民がプラスチックごみ削減のための「プラスチックごみゼロ宣言」をし、お互いに意識を高めるべきだと考えるが、町長の考えを聞きたい。

町長

ここ3年は意識啓発のためのイベントができない状況ではあるが、イベントの中では「マイバック」や「マイはし」の作成等を行い、使い捨てをしない意識の醸成を図ってきた。

また学校を通じて環境副読本の配布や分別収集・分別現場の視察などの環境教育も行い、小学生のうちから環境問題を意識してもらうとともに、家庭での波及効果も期待している。

スーパーでのレジ袋の有料化により、使い捨てしないための取り組みは一層加速し、マイバッグを持参しての買い物は一般的になってきたと感じている。

資源物を捨てないことやリサイクルできる状態で分別収集するには、行政の取組だけではなく、町民の皆様の意識やマナーによるところが大部分を占めている。SDGsを意識した取り組みは、社会全体に求められており、今後も引き続き環境問題に積極的に取り組む姿勢を明らかにできるよう環境施策の充実に努め、宣言の発出に向けた準備のため、情報収集や調査・研究を行っていく。

Q 大雨時の避難対策は？

A わかりやすい広報、早めの情報発信に努める

田中　博愛 議員

田中

町は災害時における浸水表示看板を避難する際の目安になるよう、最近、町内の電柱に設置したが、大雨になり河川が増水し、浸水被害が切迫した際には、他にどのような避難対策を講じるのか聞きたい。

町長

町では洪水ハザードマップによる想定浸水深を可視化し、釜無川が氾濫した場合に想定される浸水深を表示することにより、洪水災害に対する備えを町民の皆様にしていただくため、今年度、順次町内の電柱に想定浸水深表示板を設置し、8月末には町内63か所への設置が完了した。

この表示板については議会からも設置について提言をいただいていたが、今後は洪水災害時に町民の皆様が避難する時の目安にもなるものであると考えている。

洪水災害が切迫した際にどのような避難対策を講じるのかについては、大雨による洪水災害は、地震災害のようにではなく、防災情報や気象情報等により、あらかじめ避難準備等の対策を講じることができる災害であると認識している。

町では災害時に自らの命を守るために必要な情報が掲載されている「洪水ハザードマップ」、「防災マニュアル」を全戸配布している。

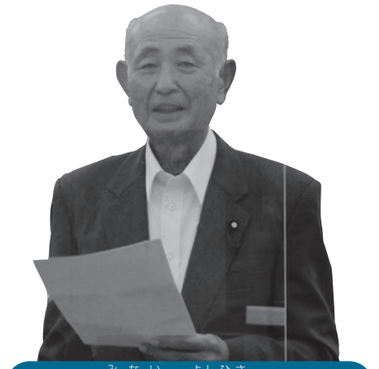
また広報昭和8月号においても2ページにわたり、2階以上への垂直避難等、洪水災害への備えについて掲載している。

町民の皆様が災害リスクを過大・過小評価することなく、冷静に行動していただけるよう、わかりやすい言葉で引き続き広報するとともに、夜間に河川の水位が上昇することが想定される場合は、明るい時間帯のうちから避難を呼びかけるなど、早めの情報発信に努めていく。

想定浸水深表示板

Q 次の半世紀を見据えた町政運営を!

A 町民福祉と町民サービス向上のために全身全霊を傾けていく



薬袋（みない） 義久（よしひさ） 議員

薬袋

塩澤町長は「豊かなまちの誇りを次の半世紀へ」をキーワードに住みよいまちづくりや安全安心なまちづくりに尽力されてきた。本町のこれからの50年を見据え、課題を解決していくには、町民の声に耳を傾けながら問題解決に取り組む塩澤町長のようなリーダーシップが必要である。

次の半世紀を見据えた町政運営をどのように考え、町民からの出馬要請にどのように応えていくのか。

町長

私は平成31年2月、多くの町民の皆様から町政運営を託され、この歴史と伝統ある昭和町を次の半世紀へ向けて持続的に発展させ、町民の皆様から「住んでよかった」「このまま住み続けたい」と思っていただけるよう取り組んできた。

就任1期目は新型コロナウイルス感染症との闘いから始まり、私は町民の皆様の命と暮らしを守ることを第一に考え、子育て世帯などへの給付金事業、町内事業者の事業継続を応援する給付金事業、さらに「3活商品券事業」の展開、ワクチン接種の体制整備など、必要な支援を的確かつ迅速に実行してきた。

またすべての町民の皆様が暮らしやすさを実感できる町とするため「教育環境の充実」「社会福祉の充実」「地域経済の発展」「安全・安心なまちづくり」の4つの柱に沿って町政運営を進めてきた。

「教育環境の充実」では、子供たちの健やかな成長と等しい教育環境の整備・充実のため、ほたる學舎の開校、子ども教室の拡充をした。

また常永小・押原中の増築、GIGAスクール構想へ対応するためのタブレット端末の有効活用、ICT教育を推進してきた。

「社会福祉の充実」では、個別センター健診の導入や介護予防事業の拡充、福祉介護課と子育て支援課の新設など、介護サービスや子育て支援の充実を図った。

「地域経済の発展」では、地域社会を支える小規模事業者や都市近郊型農業者への支援を強化し、念願だった町道30号線の開通、昭和玉穂中央通り線及び町道124号線の整備着手など地域経済の活性化を図るとともに、開発許可基準に関する条例改正による宅地開発の推進が、町の人口増加につながった。

「安全・安心なまちづくり」では、防災士の資格取得の支援、浸水深表示の設置など、地域防災力の強化を図るとともに、防犯力も高めてきた。

さらに今、本町が進めている公共施設の再編については、限られた財源を有効に活用し、町民の皆様の利便性・安全性、そして満足度の向上を図る計画的な施設整備が急務である。皆様からいただいたご意見を参考に方針を定め、再編を進めていく。

次期町長選への出馬の要請も多くの団体からいただき、身が引き締まる思いだ。

残された任期を全うしたうえで、「豊かなまちの誇りを次の半世紀へ」をキーワードに掲げ、50年後の本町の明るい未来を見据え、2期目の町政執行を目指す所存である。

山積する重要な課題一つ一つに丁寧かつスピード感をもって取り組むとともに、4つの柱に基づく取り組みも継続し、さらなる町民福祉と町民サービスの向上を図れるよう、町政運営に全身全霊を傾けていく。

Q 放置自転車の売却、譲与を!

A 売却を含め、より良い方法でのリサイクルを検討する

長田（おさだ） 信夫（のぶお） 議員

長田

駅などに放置された自転車は、所定の期間が経過すると所有権が自治体に帰属される。

この放置自転車について、税金を使って廃棄処分するよりも整備等をしたうえで、売却や部品の再利用、または発展途上国への譲与を行う自治体が増えてきている。

また本町の第6次総合計画などにおいても、リサイクルの普及・啓発に努めるとしていることから、放置自転車の売却・譲与を行うべきと考える。

町長

高度経済成長期においては大量生産・大量消費により、日本は目覚ましい経済発展を遂げてきた。

ところが現在では異常気象に代表されるような地球温暖化による影響が世界各地で猛威を振るうようになり、環境問題からその方向性の転換が求められるようになっている。

本町でも、地球温暖化防止実行計画を策定し、温室効果がある二酸化炭素排出の抑制に取り組んでいるところであるが、2020年には中巨摩地区広域事務組合の構成市町が共同で「ゼロカーボンシティ宣言」を行い、2050年の二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指し、その取り組みを加速させなければならないところである。

廃棄された自転車の処理に関しては、粗大ゴミとして出されたものはその日のうちに、また町内にある2つの駅前の駐輪場に放置されたものは、撤去の告知を行ったにもかかわらず放置されている場合、半年間保管したのちに業者に引き取りを依頼している。

引き取られた自転車は、アルミやスチールなど金属の種類ごとに分別され、さらにリサイクルされて新たな製品に姿を変え、再び市場に出されることとなる。

今後、売却を含めて議員が例として提示されたような方法についても情報収集を行い、より良い方法でのリサイクルができるよう検討していく。

駅利用者の自転車

回収された放置自転車

議会・委員会活動報告

産業厚生常任委員会

中央市の子育て支援拠点施設を視察

令和4年7月5日、近隣自治体の子育て支援拠点の状況を確認するため、中央市子育て支援センター、中央市立れんげ児童館及び放課後児童クラブ「また あした」を視察しました。

中央市子育て支援センター及び中央市立れんげ児童館は旧玉穂庁舎を改装し、1階を子育て支援センター、2階を児童館として整備された複合施設であり、視察に訪れた日も1階のプレイルームなどでは多くの親子が利用していました。利用者からは近くに広々として、便利な施設ができて嬉しいなどの声を聞くことができました。

また、放課後児童クラブ「また あした」では、学校帰りの多くの児童が来ており、視察に訪れた時間が宿題の時間であったため、みんな机に向かって静かに学習していました。

中央市子育て支援センター

放課後児童クラブ「また あした」

昭和町議会

議会リモート防災訓練を実施

令和4年8月28日、町の総合防災訓練終了後、議員及び議会事務局で議会防災訓練を行いました。

今年の防災訓練は全議員に配布されているタブレット端末やスマホのビデオ通話機能を利用し、リモートで実施しました。発災時に西条・押原・常永の各地区に議員がいる状況を想定し、現場の被災状況をビデオ通話機能を使い、リアルタイムで災害対策本部に報告しました。

リモートで災害対策本部と中継を結ぶことにより、緊急性の高い被災箇所や被災者の情報を即座に伝えられることは大きなメリットとなるので、今後とも訓練を重ねていきます。

タブレットを使った中継

反省点などを全員で意見交換

議会の動き（一部掲載）

7月

- ▼5日(火)
  - 産業厚生常任委員会視察
  - 広報編集常任委員会
- ▼11日(月)
  - 県後期高齢者医療広域連合議会臨時会
- ▼12日(火)
  - 町村議会広報研修会
- ▼13日(水)
  - 国中6町議会議員研修会
- ▼25日(月)～29日(金)
  - 決算審査
- ▼29日(金)
  - 甲府地区広域行政事務組合議会臨時会

8月

- ▼1日(月)～5日(金)
  - 決算審査
- ▼8日(月)
  - 山梨県広報協会総会
- ▼10日(水)
  - 全員協議会
- ▼23日(火)
  - 山梨学院大学との調印式
- ▼25日(木)
  - 全員協議会
  - 議会運営委員会
  - 広報編集常任委員会
- ▼28日(日)
  - 議会防災訓練

9月

- ▼1日(木)～16日(金)
  - 令和4年第3回定例会（9月議会）
- ▼16日(金)
  - 広報編集常任委員会
- ▼21日(水)
  - 中巨摩地区広域事務組合議会定例会
  - 山梨学院大学研修会
- ▼22日(木)
  - 全員協議会
  - 秋の交通安全運動街頭指導

◀昭和町議会の全日程表はこちら

「議会だより しょうわ」を読んでみて

モニターさんからの意見集

昭和町議会では、議会モニターのみなさんに議会だよりに関してのアンケートへご協力をいただいています。今回は「議会だよりしょうわNo.194」について、議会モニターのみなさんからいただいた貴重なご意見等をいくつかご紹介させていただきます。

議会だよりしょうわNo.194について、こんな意見をいただきました。（一部掲載）

「報酬等審議会の開催を要請」について

- 議員報酬がなぜ話題になっているのかから、今後どうなっていくのかまでがわかりやすく説明されており良かった。今後も注視していきたい。
- 以前にも議員報酬が少ないと書いた。全国の中で低い水準なら、昭和町と同じ規模の自治体を調べ、そこの議員報酬と比較し、それを根拠にしたらどうか。

「一般質問」について

- 線状降水帯等、雨の降り方が変化している現在、鎌田川及び釜無川の氾濫が想定されている。過日のNHKの番組の中で役場担当者が浸水想定の高さの表示を電柱に行っているとの話があり、進捗状況とともに関心があった。
- 議員が町のどのような問題に着目しているかに興味があった。食費の高騰に伴う学校給食への影響や老朽化した公共施設の再編等、町民も気にしている内容が多かった。

「委員会活動報告」について

- 押原公園防災倉庫等の防災備品の管理がどのように行われているのか関心があった。災害が発生した場合、十分に活用できるよう、議会でも検討してほしい。
- 備蓄品（テントや食料など）の写真が載っていればもっとよかった。

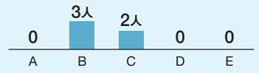
その他

- SNSの書き込みができるようにしてほしい。
- 写真や絵が各所に使われており楽しかった。

議会モニターさんに議会だよりを評価してもらいました。

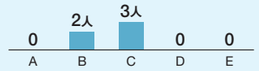
議会だより 通信簿

内容の満足度



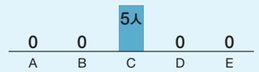
A.非常に満足している B.満足している C.普通
D.あまり満足していない E.全く満足していない

読みやすさ



A.非常に読みやすい B.読みやすい C.普通
D.少し読みにくい E.非常に読みにくい

情報の多さ



A.多すぎる B.少し多い C.ちょうどいい
D.少し足りない E.少なすぎる

追跡 あの質問はどうなった？

議員の質問に、町当局がその後どのように対応し、どうなっているかを追跡・検証してみました。

追跡

老朽化した公共施設をどう再編していくのか？

令和3年6月議会
田中 博愛 議員 ほか多数

問 本町の公共施設は中央公民館を筆頭にいずれの施設も劣化が進んでいる。今後、老朽化した公共施設をどのように再編していくのか。

答 令和4年4月に総務課に新たに「総合戦略推進監」を設置し、公共施設の再編等の重要課題について重点的に取り組んでいる。また、昨年予定していた（仮称）「公共施設のあり方検討会」は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、延期となったが、町民の皆様からご意見をいただくことができるよう開催方法、開催時期などを検討していく。

町民も利用する中央公民館の和室▶

こうなった 令和4年8月18日・19日・21日に昭和町地域交流センターにおいて、町の公共施設の再編に関して、町民から直接意見を聞き、方針を定めることを目的とした「公共施設のあり方検討会」が開催された。

委員:監査委員　管理者:会計管理者

かんさの部屋

私たちがしっかり見ました

議会選出監査委員
林（はやし）　和仁（かずひと）

代表監査委員
小林（こばやし）　一（はじめ）

監査委員とは

監査委員とは、地方自治法で設置が義務付けられており、自治体が行う事業において、お金が適正に使われているかを調査する機関です。

今回は、給食センターの定期監査及び令和4年6月から8月に行われた例月現金出納検査（検査対象月は令和4年5月から7月）において、監査委員から昭和町の会計管理者（出納室長）へされた質疑の一部を掲載します。

令和3年度決算審査

令和4年7月25日から8月5日にかけて、令和3年度の決算内容の審査を実施しました。

資料に基づき各担当課長等に説明を求め審査した結果、各担当課・各学校とも に決算は適正に処理されており、問題なく終了しました。

給食センター定期監査

委　員：献立を作成し、食材を発注する際、業者の決定は誰が行うのか。また、届いた食材の確認は何名で行うのか。

センター長：栄養教諭が案を作成し、所長が決めている。内容確認は2人で行っているが、アレルギー関連の食材はアレルギー担当栄養士が行っている。

委　員：各学校への給食配送業務委託の契約方法は。また、昨年度の委託料と比較し、倍近い金額だがなぜか。

センター長：随意契約である。昨年度契約していたシルバー人材センターが急遽事業から撤退したため、県内で実績があり対応可能な事業者で検討し契約を結んだ。また、委託料は上がったが、以前かかっていた被服費・消耗品費等は事業者負担となった。

例月現金出納検査

【5月分】

委　員：病児病後児保育事業相互利用負担金とは何か。

管理者：町外の病児病後児が町内の病児病後児施設を利用した場合に当該市町村から支払われる負担金。

委　員：小規模事業者持続的発展支援補助金が3件あるが内容は。

管理者：ふるさと納税対応品の開発等を行った場合の補助金。1件あたり50万円支払っている。

【6月分】

委　員：前年度繰越金について、予算では3000万円のところ、収入実績は6億6000万円となっているがなぜか。

管理者：当初予算作成時点では繰越金の金額が確定しておらず、仮での予算計上となっていたため。9月補正で予算を増額計上する。

委　員：議会費387万円の減額補正の内容は。

管理者：議員に1名欠員が生じたため、報酬等を減額したもの。当初予算では1年分の予算を計上しているため減額した。

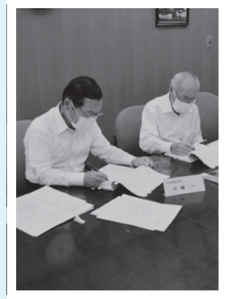
【7月分】

委　員：押原中学校、関東・全国大会参加補助金については全額補助か。

管理者：町費での全額補助である。

委　員：本年度の対象種目と人数は。

管理者：種目は水泳・ソフトテニス等11種目。人数は生徒85名、教員19名。9月には吹奏楽のコンクールがあるため、まだ増えると思われる。



山梨学院大学との研修会

テーマ

通年議会について

講師

大正大学社会共生学部
江藤（えとう）　俊昭（としあき）教授

開催日

令和4年9月21日（水）
午後3時30分～午後5時

内容

議会の役割の根幹は「住民自治の向上」である。これを実現するためには、定例会や臨時会の期間のみ活動するのではなく、通年（1年間）や通任期（4年間）で目標を立てて活動する「政策サイクルの展開」が必要である。

通年議会とは、1年間を活動期間とする会期制度であり、いつでも議会や委員会を開けるなどの点で、この政策サイクルの展開と相性が良い。

研修では、通年議会を導入している先進議会の現状や導入過程などを学んだ上で、今後の昭和町議会のあり方について意見を交わした。

議会クイズ

次の問いに答えてください。

Q 令和3年度の歳出額は
コロナ関連事業で○○○億円超!

正解者の中から抽選で5名の方に図書カードをお送りいたします。

ヒント
No.195
（この号）を
読んでください

No.194に対する こんなご意見をいただきました!

昭和町議会に女性が1人しかいらっしゃらないことに驚きました。女性目線から子育てのこと、教育のこと、盛り上げていける町になってほしいと思いました!

メールにて（31歳・女性）

久しぶりに読みましたが、町の動向等、意外と知らないことが知れて勉強になりました。

メールにて（26歳・男性）

見やすく、分かりやすい。

ハガキにて（44歳・女性）

昭和町議会の報酬が19年間変わっていないということがありましたが、我が家では、夫の給料はだんだん減るばかりです。定年まであと2年。退職金も減ってきているので、早期退職するかどうか考えています。民間は、コロナ禍で満足な手当てはもらっていないのではないでしょうか。今はとにかく我慢の時期だと思っています。

メールにて（63歳・女性）

コロナ禍が続くなかで、さまざまな価格の高騰に悩まされてきました。食品の値上げで給食費も上がるのではないか?と不安に思っていたので、今回の議会だよりを読んで給食費の改定は考えていないとの答えに安心しました。大変かと思いますが、維持をお願いします。

メールにて（39歳・女性）

ご意見をいただいた方には個別に回答させていただいています。

字体は手書き風書体に変更してあります。

【応募方法】

①クイズの答え　②住所　③氏名（ふりがな）
④年齢　⑤議会だよりを読んだ感想
を記入して、はがき・FAXまたはメールにてお送りください。**議会だよりへの要望・意見等**もありましたら、お願いいたします。

No.194のクイズの答え　**報酬等**

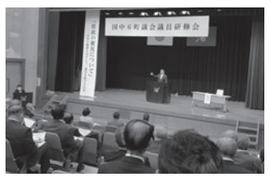
【あて先】

●〒409-3880 昭和町押越542-2
昭和町議会事務局「議会クイズ係」宛
●FAX:055-275-0370
●メール
gikai@town.yamanashi-showa.lg.jp
《しめきり》11月末日 消印有効

メールに移動

議会TOPICS

国中6町議会議員研修



昭和町議会は7月13日に南部町で開催された国中6町議会議員研修会に参加しました。研修会では長崎幸太郎山梨県知事の講演を聴き、その後、意見交換会が行われました。

山梨学院大学との連携協定締結

8月23日、山梨学院大学のキャンパス内において、山梨学院大学と昭和町議会の連携協定に関する調印式が開催されました。山梨学院大学の青山貴子学長と当議会の石原高明議長が出席し、連携協定が締結されました。

議会だより
しょうわ
No.195
2022.10.27

青空と緑と産業のまち「昭和町」に住む
皆様にご意見・ご感想を伺いました。

暮らしやすい町

西条新田区
市川（いちかわ） 千穂（ちほ）さん

私は結婚を機に昭和町に住みはじめ、22年程になります。子ども3人にも恵まれ、子育てをする上で、とても優遇されている町であることを実感しています。また、10月からは子育て支援医療費の助成も18歳まで拡大される事になり、高校生のいる我が家にとっても、とても有り難く思っています。

私の家の近くには鎌田川が流れ、田園が広がり、遠くには雄大な富士山。初夏にはカエルの合唱が聞こえ、川では魚や野鳥なども見られます。この自然豊かな環境がある一方で近くには大型商業施設、医療機関も充実しており、生活する上で不便を感じる事もありません。ただ、開発が進み、農地が減少しているのは少し寂しく感じています。

小さくても豊かな町。自然豊かで暮らしやすい昭和町を、子ども達にも引き継ぎ、さらに発展していくことを願っています。

変わり続ける町

飯喰区
野澤（のざわ） 弘樹（ひろき）さん

祖母の生まれた町、昭和町に住居を構え約8年が経ち、その間に家族も増えました。

正直、夫婦で暮らしている時は「近場にも色々なお店があって便利だな」くらいにしか思っていませんでしたが、子どもが生まれ生活スタイルが変化すると、改めて昭和町の良さに気づくことができました。

子どもが安心して遊べる自然豊かな公園、ベビーカーでも散歩しやすい歩道や道路、商業施設には広いトイレとベビールーム。当たり前のようで決して当たり前ではないと思います。今は子どもも小さく、周りも子育て世代が多いですが、いずれ子どもも巣立ち夫婦も歳をとります。その時にも今のように「生活がしやすい町、昭和」であるためには、どの年代にとっても住みやすくユニバーサルな町作りを進めていく事が大切だと思います。

いつの時代も子育て世代から高齢世代まであらゆる世代が笑顔で過ごせる、そんな活気溢れる昭和町であってほしいと願っています。

■発行人
議長 石原 高明

■編 集
広報編集常任委員会
印刷 株式会社サンニチ印刷

■発 行
山梨県昭和町議会
〒409-3880
山梨県中巨摩郡昭和町押越542-2
TEL.055-275-8842（直通）
TEL.055-275-2111（代）
FAX.055-275-0370

議会を傍聴しませんか??

次回定例会は
12月1日（木）
開催予定です

【お問い合わせ】
☎275-8842（議会事務局）

広報編集常任委員会

委員長	田 信夫
副委員長	石原 政信
委員	金丸 富一
	堀 門 耐
	小林 太三
	海野 豊

寄附行為の禁止

議員は選挙区内の人（法人、その他の団体を含む）に対してお金や物を贈ったり、年賀状等のあいさつ状を出したりすることを禁止されています。また、有権者が議員に対して寄附を求めることも禁止されていますので、皆さまのご理解をお願いいたします。